

生粋のドリブラー!!両サイドハーフが躍動!



左サイドから多くのチャンスを生み出し、1ゴール1アシストの湯澤洋介

「前半は駒大がやろうとしていることをできた感じだった。(得点シーンは)前からヘディングで決めたいと思っていた。そしたらちょうどヘディングでいい球が来たので、あとあんまりヘディングで点をとらない選手なので点を取れてうれしかった。後半は自分たちの足が止まってしまったので、相手に押し込まれている時間帯が多かった。次戦は自分達がやろうとしていることを徹底してやって圧倒したい」

「ペナルティ付近はもう勝負ということを徹底してやっていた。得点シーンも湯澤さんがああいう形でラストパスを出してくれたので、自分はあと流すだけだった。上手く入って良かった。ペナルティ付近でボールを受けたら、パスというよりはドリブルで仕掛けて、クロスやシュートというのを意識した。(次節は)また監督に選んでもらえたら、しっかりやり切って、得点をしっかり決めて。チームの為にやることをやりたい」



朝鮮大戦に続き2試合連続ゴール、ルーキーながら存在感抜群の平野篤志



三澤祥馬主将は安定した守備で反撃を1失点に抑えた

Captain Comment

(今日は)結果だったので、勝てたのは良かったが、やっぱり90分間戦えないことと、失点もしてしまったので。1部はもっと厳しいし、今年上がったとしても来年できなくなってしまうので、もっと厳しく90分間戦えるようにしたい。(早い時間に2点取れた)外からというのが、チームの特徴なので、1点目はよかった。(相手は)前に2枚大きいのがきていたので、そこに入ると嫌だった。前半は対応が出来ていたが、(点をとられた辺りから)流れが変わってしまったので、もったいない失点だった。(その時間に前半と変わったことは)運動量が落ちてしまった。途中から運動量がなくなるというのは毎試合毎試合あって、そこは走れなきゃダメ。(前半よかった要因)前半特に前から行って、蹴らせないことが出来ていた。取れるとチャンスになるし、そこで限定しているから後ろもインターセプトが狙いやすくなる。今週プレスをやっていて、そこを大事にしていたので。(中盤は)意識的に若山を前に出して、そのスペースをカバーされるとしていたが、後半特にそれが出来なくて、2トップが下がったときに、そこに当てられてというようになっていたので、90分間通して、後ろから声をかけられるようにして、突き詰めていかないとと思う。(次は)連勝して勢いに乗りたいので、次もしっかり勝っていきたい

リーグ順位表

順位	チーム名	勝ち点	試合	勝	負	分	得点	失点	差
1	東洋大	16	7	5	1	1	15	5	10
2	桐蔭横浜大	16	7	5	1	1	13	6	7
3	駒澤大	14	7	4	1	2	16	9	7
4	青山学院大	13	7	4	2	1	14	10	4
5	東海大	10	6	3	2	1	13	5	8
6	拓殖大	10	7	2	1	4	13	13	0
7	法政大	8	6	2	2	2	13	11	2
8	関東学院大	8	7	2	3	2	7	11	-4
9	日本大	7	7	2	4	1	7	13	-6
10	亜細亜大	5	7	0	2	5	6	9	-3
11	朝鮮大	4	7	1	5	1	7	17	-10
12	平成国際大	1	7	0	6	1	2	17	-15

今季初の連勝で3位へ順位を上げた駒大。首位との勝ち点差はわずか2で、トップが見えてきた。しかし首位東洋をはじめとする上位のチームとの対戦が少なく、まだまだ棘の道は続いていきそう。そんな中前々節は4ゴール、前節は3ゴールと、リーグ屈指の得点力が爆発している。型にはまった時の駒大サッカーはだれにも止められないだろう。前線からのハイプレスと、得意のショートカウンターの相手手をねじ伏せ、連勝街道を突っ走ってほしいところだ。

紙面編集・森下和貴